

# 2020年度事業報告書

(2020年4月1日～2021年3月31日)

## I 概況

2020年度は新型コロナウイルスの影響に見舞われ、臨機応変な対応が求められました。非常時において何より大切なのは、未知なる脅威に対して「すべてのいのちを守る」という強い姿勢です。ロゴスでは東京都の方針に従い感染予防と拡大防止を徹底するとともに、開館時間の変更や来館者の制限、リモートワークの導入などを柔軟に取り入れることで、事業の継続に努めました。その結果、職員・ボランティアなど関係者に感染者を一人も出すことなく、一年を通して従来通りの図書館サービスを利用者に提供できました。

残念ながら当初予定していた事業のいくつかについては中止や変更を余儀なくされましたが、その一方、「働き方改革」の文脈とも呼応し、職員の柔軟な働き方を推進する上で成果も見られました。

未曾有の危機とも言われるコロナ禍で何ができるか、職員全員で試行錯誤を繰り返しましたが、業務内容や働き方を見直し、点字図書館における「ニューノーマル」を模索する貴重な一年間となりました。詳細につきまして、以下に報告いたします。

## II 重点施策

### 1. 利用者数減少対策

利用者数減少対策として、「(1) コミュニケーション力の強化」、「(2) 相談業務の充実」、「(3) 地域貢献事業の拡充」、「(4) 定期発行物の活用」を掲げ、取り組みを進めました。

中でも特に注力したのは、「(2) 相談業務の充実」でした。公式資格取得者によるスクリーンリーダーNVDA利用相談のほか、パソコンやスマートフォンの相談にも積極的に応対し、前年に比べ相談件数が大幅に増加しました。「(1) コミュニケーション力の強化」では、コロナ禍における視覚障害者の立場でメディア取材に対応し、一般の方から反響があったほか、日本視覚障害者職業能力開発センター主催の「ロービジョンセミナー」で館長が登壇し、ICTの展望について講演を行った際は、ロゴスの理念に共感した方から新規利用者の登録がありました。こうした取り組みは定期発行物で紹介し、幅広いニーズに応えられることを訴求しました。

ただ、利用登録者数については、新規登録者の増加に対して高齢や死亡などによる減少幅が大きく、昨年度の同時期と比較して16人減少し851人（2021年3月現在）となりました。コロナ禍で利用者に来館いただく企画が難しく、隣接地域でのアピールに課題が残りました。ホームページについてはスマートフォン対応やアクセシビリティ配慮など大幅な改修ができましたので、行事やニュースなどを即時発信し、より多くの方にロゴスを知っていただくよう今後も取り組みを継続して参ります。

## 2. 蔵書製作体制の見直し

利用者のニーズとロゴスの理念がともに満たされる蔵書を効果的に製作していけるよう、点字・録音図書製作部門が連携し、以下の優先順位のもとで、蔵書製作を進めて参りました。

- ① 理事長もしくは館長が、点字もしくは録音またはそのいずれの媒体においても最優先にロゴスの蔵書にすべきと判断した図書
- ② 利用者からのリクエスト及びプライベートで製作依頼を受けたものであって、ロゴスの理念に合致する図書
- ③ 点字図書にあって録音図書にない、またはその逆の蔵書であって、利用者から製作依頼のあった図書

これら方針を踏まえ、利用者からの要望が高くロゴスの理念とも合致するカトリック中央協議会出版の最新図書を迅速に点訳・音訳し、利用者に届けることができました。

またロゴスの理念を支持してくださっている多くの利用者からのリクエストをもとに選書するスタイルは定着しつつあります。その上で、特に2020年度は録音図書にあって点字図書がない蔵書について、点字図書の製作に注力しました。蔵書の種類のみならず媒体の選択肢を増やすことで、利用者のニーズに応えられる体制を整えました。

## 3. 「場」を重視したボランティア育成

当初の計画ではボランティアの方にご来館いただく勉強会を積極的に実施する予定でしたが、コロナ禍でその大部分を中止することになりました。ただ、その代替案として収録した講義の音声を作成・配布するなどの新たな取り組みを行ったほか、Zoomなどのツールを利用したオンライン勉強会の企画も進み、状況に応じた柔軟な方法が選択できるよう体制を整えることができました。

#### 4. 出版事業の見直し

ロゴスでは今後限られた資源を図書館サービスに集中していく目的で、点字図書出版事業の見直しを行いました。

まず、出版図書目録に掲載されている図書を精査し、採算の見込みはないが貸出図書として価値のあるものを除籍し、図書館事業に移行しました。またこれまで点字図書出版事業の中で製作してきた「カトリック通信講座」各テキストについては出版事業から図書館事業へ移管するとともに、点字版と併せて録音版をそろえることで、利用者の利便性向上に努めました。その他、毎年出版してきた『教会暦と聖書朗読』については、2021年度以降は図書館事業の中で製作・対応することといたしました。

#### 5. 働き方改革の推進

2019年度に改定した就業規則のもと、固定残業制度並びに有給休暇の時間単位取得を導入しました。またコロナ禍の対応として時差出勤、リモートワークを奨励し、組織の感染リスク低減を図るとともに、職員の働きやすさ向上に努めました。結果、時間外労働については予算を下回る範囲で納まり、併せて職員の有給休暇取得について年5日以上目標を全職員が達成しました。

### Ⅲ 事業報告

#### 1. 図書館サービス

2020年度の年間貸出総数は、点字図書が247タイトル・587冊、テープ図書が407タイトル・2,243巻、CD図書が2,603タイトル・2,724枚でした。またサピエ図書館に登録している当館蔵書の年間ダウンロード総数は、点字データが977タイトル・3,426巻、デイジーデータが1941タイトル・15,362時間37分でした。点字図書に対する録音図書利用の比率が高い傾向は変わりませんが、前年度に比べ点字図書の利用が貸出・ダウンロードともに増加しました。貸出については63タイトル・43巻の増加、ダウンロード数については584タイトル・1,993巻の増加となっており、コロナ禍における読書ニーズの高まりが要因の一つとして考えられる結果となりました。

2020年度の生活相談件数は前年度より倍増し、総計27件でした。重点施策の下、ICTに関する相談への対応を積極的に呼びかけた結果、当館登録の利用者に留まらず幅広い方からの問い合わせが寄せられました。

その他、プライベートサービスとして、仕上りの品質や原本の取り扱いにも細心の注意を払い、料理のレシピ集、祈祷書、句集など幅広い資料の点訳を行いました。また録音図書の依頼についてはそのほとんどを蔵書として製作しました。

## 2. 図書製作

2020年度の蔵書製作数は、点字図書については27タイトル・106冊、録音図書についてはテープ図書が29タイトル・187巻、CD図書については194タイトル・194枚となりました。コロナ禍で直接の対応が制限される中、メールや電話などでボランティアの皆様とのやり取りを密にすることで目標を上回る図書製作を実現できました。

## 3. ボランティア育成

点訳ボランティアについては、初版に対して寄せられた点訳・校正者からのご希望を反映し、『点訳のてびき第4版』と併用してご使用いただける「蔵書製作マニュアル第2版」を製作しました。また当初企画していた「蔵書制作マニュアル第2版」勉強会がコロナ禍で開催できなかつたため、講義の録音版を製作し、ご自宅でダウンロードしてお聞きいただく方法に切り替えました。ダウンロードが困難な方には、CDに録音してお送りしました。

音訳ボランティアについては、音訳勉強会を4回（9月・10月・11月・12月）、音訳校正勉強会を4回（9月・10月・11月・12月）開催しました。コロナ禍の影響で開催回数が例年の半分以下となってしまったものの、開催時は音訳者、校正者の疑問質問が絶え間なく飛び交い、モチベーションを上げる良い機会となりました。また、CICインフォメーションセンター、江東音訳サービスなど外部団体との連携にも力を入れ、製作体制の強化ができました。

## 4. 地域貢献

地域貢献の一環として、中途失明された方で、当館へ直接ご来館いただける方を対象に、点字教室を開催しました。開催数は29回、受講延人員は29名となっています。2020年度は、コロナ禍により対面授業を行うことが阻まれ、予定の大部分の休講を余儀なくされましたが、希望された方を対象に電話を利用したリモート授業を行いました。全くの未経験者ではなく半年間学ばれた方であったため、スムーズにリモートでの対応が実現できました。今後は情勢にかかわらず、リモート授業の可能性を広げ多くの方に学んでいただける教室ができるよう講師と相談しながら進めてまいります。

## 5. 啓発活動

これまで毎年開催してきた「ロゴスの文化教室」及び「チャリティ映画会」について、いずれも開催することができませんでした。また2019年度に初めて参加した「江東区民まつり」についても、イベントが中止となりました。

## 6. 定期刊行物・点字出版

コロナ禍で勤務時間や人員が制限される中でしたが、予定していた全ての定期刊行物及び出版物を発行できました。

定期刊行物については、支援者向けニュースレター「通信あけのほし」を年4回、利用者向け新刊図書案内「ロゴスのほん箱」を隔月、さらにカトリック視覚障害情報提供施設連絡会の事務局として「点字・音訳図書情報」を年3回の頻度で発行しました。なお、連携団体の活動終了やサピエ図書館の浸透にともない本連絡会は発展的解消となり2021年3月で閉会しました。

有料のものについては、カトリック教会のミサで用いる「聖書と典礼」の点字版、当館オリジナル雑誌「あけのほし」点字・録音版をそれぞれ毎月発行しました。

点字出版については、最新版の『点字技能検定試験の対策』及び『教会暦と聖書朗読』の出版を行いました。

その他、視覚障害者関連団体の刊行物をはじめ、大阪大司教区発行の「大阪カトリック時報」、日本盲人福祉委員会委託の報告書（全3巻）の製作業務などを受託しました。

## 7. 外部との連携

2020年度は予定されていた各種行事が中止となる中、視覚障害者選挙情報支援プロジェクト主催・衆院選選挙公報製作研修会、東京都主催・IT支援関係機関連絡会など、オンラインで開催された会議を通して外部団体との連携を図りました。

また新しい取り組みとして、国立がん研究センターがん対策情報センターが中心となって進めている、厚生労働科学研究費補助金がん対策推進総合研究事業「障害のある方への健康医療情報提供のあり方に関する研究」に参加、協力しました。医療専門機関と障害者支援専門機関が連携し、視覚障害者への情報提供のあり方や医療機関への有効な働きかけについて行われる研究で、インタビュー調査に応じたほか、定期的に行われる会議に出席しました。この事業は来年度も継続して参加する予定です。

## 8. 法人業務・会議体

2020年度は理事会4回並びに評議員会2回を開催しました。会場での開催が困難な状況下では書面による決議省略を行ったほか、11月及び3月の理事会ではオンラインでの出席に対応しました。

理事会での主な議題は2019年度事業報告並びに決算、2020年度補正予算、2021年度事業計画並びに予算、役員等報酬規程の改定などです。また、評議員会では理事会で審議された2019年度事業報告、決算、役員等報酬規程改定案などが審議され、全会一致で承認されました。